

◆執筆者（筆頭著者）一覧◆

1. 角南 俊介（スナミ・シュンスケ／経済学部経済学科）
2. 谷釜 尋徳（タニガマ・ヒロノリ／法学部法律学科）
3. 安則 貴香（ヤスノリ・ヨシカ／経営学部経営学科）

◆編集後記◆

今年度の『スポーツ健康科学紀要』（17号）をお届けします。発行にあたり、ご関係各位のご尽力にこの場をかりて感謝申し上げます。

いよいよ、今年は2020年です。東京オリンピック・パラリンピックには、たくさんの東洋大学関係者が出場する模様です。この文章を書いている1月末の時点でも、すでに内定を勝ち取った選手が複数名います。また、この自国開催の“オリパラ”には、ボランティアとして多くの学生が関わるのが期待されています。前回、1964年の東京大会では、東洋大生が選手村で大活躍し、新聞記事にも取り上げられました。東洋大学の関係者がはじめてオリンピックに出場したのも、この大会です（奥沢善二選手が陸上3000m 障害に出場）。

実は、1964年のオリンピックは、日本が欧米のスポーツ科学を積極的に取り入れる一つのきっかけにもなりました。この当時、多くの競技団体では、まだ試行錯誤の段階ながらも科学に基づいたトレーニングが注目されはじめています。

現在の日本でも、2020年のオリンピック・パラリンピック招致をきっかけに様々なチャレンジが幕を開けました。東洋大学でも「東洋大学オリンピック・パラリンピック特別プロジェクト研究助成制度」が創設され、2020年の大会に貢献しうるプロジェクトに対して研究費の支援が行われています。

2020年以降も、“令和時代”の東洋大学がスポーツを通じてより豊かになるために、『スポーツ健康科学紀要』から価値ある情報を発信し続けたいものです。

（谷釜 記）

2019年度「スポーツ健康科学紀要」編集委員

委員長 谷釜 尋徳（法学部）
委員 塩田 徹（経済学部）
委員 西村 忍（経営学部）
委員 一川 大輔（理工学部）